

YOUNG BLOOD

共につき進もう ～全国の仲間と明るい未来へ～

発行責任者：JR連合 青年・女性委員会 議長 沖畠 裕章 編集責任者：幹事 稲葉 稜

第35回中央委員会での青女代表質疑

2023年2月1日（水）、ホテルアソシア豊橋において、「第35回中央委員会」が開催されました。3年ぶりに傍聴も含めすべての参加者が会場に参集した本委員会にて、青年女性組合員を代表して三宅幹事（JR西労組）がJR連合執行部に対して質疑を行いました。

●質疑内容（要約）

・各執行部組織と青年女性組合員との関係性について

→青年・女性委員会の活動は組織運動の1つである。青年・女性委員会の役員を経験した方々が、基本組織においても活躍できる場を設けられるような関係性を、各級機関で構築していただきたい。これからのJR産業を担うのが青女世代の組合員である。基本組織とともに求心力のある組織を構築していきたい。

・青女活動について

→ 青年・女性委員会の最大の目的は仲間づくりである。会社の経営状況はコロナ禍で大きく打撃を受け、転職をすることが当たり前の時代となっているが、若年層に対し、きちんと寄り添えるのが青女組織の強みである。他の産別と比較しても、青女活動を活発に展開できているのは、これまでの先輩たちが活動を積み重ねてきたJR連合だからこそである。

12月に航空連合、2月には電力総連との産別交流を実施、JR連合内においても単組間で交流を実施している。人脈は財産である。青女活動にて培われてきたつながりは、必ず実りある人生につながる。

5月には北海道にてユースラリーを開催予定である。民主化闘争の大きな流れが来ている今こそ出来ることがあると確信している。更なる民主化に向けて、全青年・女性組合員が一丸となって邁進していくので、ご理解とご協力をお願いしたい。



●当日の様子



会場内



委員会宣言を読み上げる
沖富議長



当日の議長を務めた
山本委員（JR 四国労組）

また、中央委員会において議長を務めたJR四国労組の山本委員をはじめ、傍聴も含めて多くの青女組合員が参画する中央委員会でした。

青女代表質疑に対し、執行部からは「他産別との交流について、活動の幅を持たせるためにも引き続き継続していく」、「若年層への寄り添いはまさにその通り。出会う機会を設け、つながりを継続していくことが大切になる」、「ユースラリーについては執行部としても協力を惜しまない。共に盛り上げていきたい」等の答弁を受けた。発言だけで終わらず実行に移していけるよう、JR連合青年・女性委員会が一丸となって活動に取り組んでいきます。

各種 SNS を開設
しています！
アクセスしてね
♪

